

## 「現地メディア向けプレスツアーの実施」

在ボツワナ日本国大使館

平成29年11月27日

11月10日、在ボツワナ日本国大使館は現地メディア向けプレスツアーを実施し、新聞、テレビ、ラジオ及び雑誌から計9社20名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力に関し、現地メディアを通じた情報発信を強化することにより、ボツワナ政府関係者、国民等による日本の活動への理解を深めるために実施されています。今回のプレスツアーは、「JICAボランティアプログラムと草の根無償資金協力の相乗効果」をテーマに、日本がボツワナで実施している支援の現場を訪問しました。

プレス一行は、まず、草の根文化無償資金協力によって、球技場やソフトボール器材の整備が進められているハボロネ市ソフトボール球技場を訪れ、JICAボランティアの活動状況を視察しました。続いて、市内にあるNGOチャイルドラインボツワナを訪問し、JICAボランティアの活動状況や草の根・人間の安全保障無償資金協力で整備したカウンセリングセンターを視察しました。

### ハボロネ市ソフトボール球技場

ソフトボールの普及を目指し、青年海外協力隊（JOCV）の中村藍子さんがボツワナソフトボール協会へ派遣されているとともに、日本大使館を通じて、草の根文化無償資金協力により、ソフトボールの環境整備に必要な資金を供与しています。

中村さんは、今年1月からボツワナに派遣され、代表チームを始めとする様々なチームを指導しています。また、中村さんを通じて、日本ソフトボール協会等から、ボール、バット、グローブなどの用具がボツワナソフトボール協会に寄附されました。さらに、来年2月には中京大学の女子チーム20名がボツワナを1か月間訪問し指導および親善試合を行う予定であり、日本によるソフトボール支援が一層充実する予定です。

平成28年度草の根文化無償資金協力案件「ソフトボール球技場及び器材整備計画」では、ボツワナソフトボール協会に対して65,331米ドルが供与され、ハボロネ市ソフトボール球技場や、球場で使うソフトボール器材の整備が進行中です。この支援は、日本政府のスポーツを通じた国際貢献「Sport for Tomorrow (SFT)」の対象事業でもあります。

これらの支援によって、ボツワナではソフトボールのレベルが上がっており、ボツワナ代表チームの2020年東京オリンピック出場が期待されています。



ソフトボールチームを指導するJOCVの中村さん

## NGOチャイルドラインボツワナ

児童虐待や孤児の支援を行うNGOチャイルドラインボツワナでも、JOCVの神田歩さんが活動するとともに、日本大使館を通じて、草の根・人間の安全保障無償資金協力により、被虐待児童のための無料電話相談・外来相談を行うカウンセリングセンター整備の資金を供与しています。

神田さんは、日本で社会福祉士の資格を取得し、日本国内の児童保護施設において社会福祉士として働いていました。昨年1月からチャイルドラインボツワナで、児童との面談、保護されている子供の世話、人形劇を通じた児童保護に関する啓発イベントの実施支援に取り組んでいます。

平成22年草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「児童保護カウンセリングセンター整備計画」では、チャイルドラインボツワナに78,632米ドルが供与され、カウンセリングセンターの建設等が支援されました。施設は現在、神田さんのサポートもあり、よく活用されており、昨年10月からの1年間で、施設を使用して、テレフォンカウンセリングが1,166件、面接が755件実施されています。

日本の支援が、児童虐待や遺棄の未然防止等に貢献し、子ども達の未来に貢献しています。



活動内容を説明するJOCVの神田さん



日本政府が建設を支援したカウンセリングブロック

## 報道ぶり

プレスツアーの実施後、複数のメディアが今回のツアーで取材した日本の開発協力について取り上げました。ボツワナの国営テレビ放送局であるBTVは約3分間にわたるツアーの映像をニュース番組内で放送、その他、ラジオ放送局や新聞社も開発協力分野における日本の貢献を報じました。多くの人々が目にするメディアで開発協力事業が取り上げられることで、ボツワナ国民の我が国開発協力事業に対する理解も深まりました。